2025 年度後期 START＋プログラム 事後レポート

所属学部・学科・学年	教育学部・第二類・２年

（１）START プログラムに参加して何を学んだか、この経験を今後どのように活かしていきたいか

①当初の目標は、日本とは文化も環境も大きく異なるエジプトで学ぶことで、国際的な視野や価値観を広げることであった。特にエジプト日本科学技術大学（E-JUST）は、日本が教育的支援を行い設立された大学であるので、国際教育支援について理解を深められる良い機会であると考えていた。
②現地では、E-JUST の学生と交流したり、様々な場所を訪れたりし、多くの側面から文化の違いを感じることができた。また日本式の教育を行っている小学校を訪問する機会があり、子どもたちや学校の様子から日本との多くの共通点や相違点に気づくことができた。E-JUST でのワークショップでは社会問題について現地の学生と話し合い、考え方の違いを感じることができた。
③プログラムを通して新しい価値観に触れ、さらに国際的な活動に力を入れていきたいと思ったので、これからも多くの留学生と交流し、国際系のプログラムにも挑戦したい。また海外にも積極的に行きたいと考えているので、英語力を伸ばしたい。私は海外の教育にも興味があるので、海外の学校を視察できたことは非常に重要な経験であったと考えている。今後は教育分野での国際活動にも目を向け、今行っている国際系の活動が将来、自身の専攻である科学教育に繋げられるようにしたい。

（２）プログラム内容についての全体的な感想

プログラムでは、ピラミッドや GEM、EJS(日本式の小学校)、日本国大使館、ハンハリーリ市場、レストランなど様々な場所を訪れ、各地で非常に貴重な経験をすることができた。特に GEM、EJS、E-JUST などは日本が大きく関わっていることを知り、日本とエジプトのつながりを感じることができた。講義ではアラビア語やエジプトの文化を学んだり、E-JUST の学生と社会問題についてディスカッションを行ったりした。

Sustainability や SDGs などは世界共通の話題なので、自分の考えをもち、説明できるようになっておく必要があると思った。学生交流では、E-JUST の学生やアインシャムス大学の日本語学科の学生と交流した。日本とは遠く離れた国なのに日本語を学んだり、日本文化が好きだと言ってくれたりする学生がこんなにもいることを知り、非常に嬉しく思った。日本のマンガや遊びなどについて質問されたが、答えられないものもあったので、もっと自分の国についても知り、伝えられるようになりたいと感じた。英語や日本語などエジプトの学生の語学力が高くて感動したので、私ももっと英語力を高めたい。現地では、２つの都市で大学の寮やホテルに滞在することができたので、より多くの体験ができたと感じた。現地の人と交流や多くの文化的体験

を通し、日本とは交通、食、音楽、街の風景、生活、宗教、時間の感覚、人々の考え方やノリなど何もかもが違うことを実感できた
（3）今後 START プログラムに参加する後輩へのアドバイス
専攻ではなくても、少し歴史や人物を学んで行った方が、博物館やピラミッドなどがより楽しめると思う。アラビア語は、大学で約 1 時間学習し、挨拶と自己紹介を学習した。特に挨拶は毎日使うと少し覚えられた。私は 1~10 の数字だけ覚えて行ったが、アラビア数字はよく書いてあるので便利だった！現地の学生へのプレゼントでお菓子を持って行くならハラル認定のあるもの（もみじ饅頭など）だと渡しやすい思った。スカーフは市場で気に入ったデザインのものを買った。現地の学生に案内してもらい、モスクに行ったが、その時に女性はスカーフが必要だった。胃薬は 2 種類持って行ったが、生野菜や水道水を避けるように徹底したら大きくお腹を壊すことはなく、薬は飲まなくて済んだ。食事は美味しいものばかりだった。服装は春服で丁度良かったが、夜は寒いのでパーカーなどの上着があると便利だった。ピラミッドは暑いので半袖がおすすめ。カイロセンターの方はとても親切。時間を守ったり、テキパキ行動したりすることが特に重要。 現金を使う場所は、ハンハリーリ市場とレストランのドリンクくらいだった。USD は両替以外には使っていない。50USD を EGP に両替したが、ハンハリーリ市場で沢山買いたい人はもう少し多く両替しても良いと思った。

所属学部・学科・学年	理学部・生物科学科・ 3 年
（1）START プログラムに参加して何を学んだか、この経験を今後どのように活かしていきたいか	
エジプト留学の前まで、エジプトは遠い中東の国で、日本とはほとんど接点がないと考えていました。しかし、わずか 10 日間の留学を終えた今、エジプトは「遠い国の他人」ではなく、「ともに未来をつくる仲間」だと感じられるようになりました。 その転換点となったのが、日本型教育を導入しているエジプト日本学校（EJS）での教育実習である。教職をとっていない理学部に所属する私は、本来なら教壇に立つ機会とは無縁のはずでした。しかし、EJS で小学 3 年生のクラスを 45 分間任されたことで、「教育」が国境を越えて人と社会をつなぐ力を持つことを、身体で実感しました。朝の会では、子どもたちが先生から配られた筆算プリントに静かに取り組んだあと、日直の男女 2 人が前に立ち、音楽に合わせてダンスをリードする。日本の日直や特別活動を見本としながらも、そこにあったのは日本とエジプトの両者が混ざり合った新しい学びの形でした。 こうした日本とエジプトのつながりは、大学や博物館にもありました。エジプトの大学に日本語学科が設置されていることを知りました。世界的に見ると、日本語学科は英語やフランス語ほど当たり前ではなく、進んで専門として学んでいる学生たちがい	

ました。日本が好きという言葉だけではなく、日本語を真剣に学ぶ姿勢を感じました。日本語を介してつながろうとする若者たちの姿は、両国の関係が一方向の支援ではなく、相互に学び合っているように感じました。そのことを視覚的に実感したのが、大エジプト博物館（GEM）を訪れたときである。「Museum」の文字のすぐ隣に、「博物館」という日本語が刻まれていました。展示物の説明欄には英語とアラビア語に並んで添えられた一つの日本語表記がありました。その背景には、日本の円借款やJICA による長年の協力があると説明を受けたが、私にはそれが日本とエジプトが協力して文化遺産を未来へ受け継ごうとしている姿を示しているように感じられました。E-JUST（エジプト日本科学技術大学）を訪問した際、JICA の方が「大学名に J＝Japan の一文字を入れたのには覚悟がいることだった」と語っていたこともよく覚えています。その一文字には、「遠くから支援する国」ではなく、「エジプトと同じ未来を背負う仲間であり続ける」という約束や覚悟が込められていることも教えていただきました。

今回の留学で得た最大の学びは、国境や距離が「他人」と「仲間」を分ける決定的な線ではない、という気づきである。日本とエジプトは、宗教も言語も生活様式も大きく異なります。しかし、日本型教育を取り入れた学校、日本語を学ぶ大学生、共同でつくられた博物館、そうした具体的な実践の積み重ねをこの目で見ることができました。エジプトに行く前の私は、「遠い国＝自分とは関係のない場所」だとどこかで決めつけていました。遠い国にいても「同じ未来をつくる仲間」として捉えられるようになったことが今回の学びでした。

（２）プログラム内容についての全体的な感想

大学での講義、アレクサンドリアやカイロでの施設訪問、学生交流のどれをとっても貴重な経験となりました。プログラムの中には、大使館公邸での交流会といった特別な機会も含まれており、その裏には広島大学カイロセンターのコーディネーターの方や国際部の方々のご尽力があったからだと感じています。こうした手厚いサポートを通して、改めて広島大学の国際性の強さに驚かされました。

学生交流では E-JUST の学生とともに Cultural activity や Sport activity に参加したほか、アインシャムス大学の学生とハンハリーリ市場を散策するなど、多様な交流の機会が用意されていました。その中で、エジプト人学生だけでなく、日本からの参加者同士でもさまざまな学部・バックグラウンドをもつ仲間と出会い、友人をつくることができました。私自身、HUSA での長期留学を予定していますが、同じようにHUSA で長期留学に行く仲間や、異なる進路や価値観をもつ参加者と語り合うことで、大きな刺激と新たな視点を得ることができました。

最後に、エジプトの治安面について多少の不安も抱いていましたが、引率の先生方が常に情報を共有してくださり、集合時間なども LINE を通じてこまめに連絡していただいたおかげで、危険な状況に巻き込まれることなく安心して過ごすことができま

した。安全に、そして楽しく日々の生活が送れるよう細かなサポートをしてくださった引率の先生方、そしてともに貴重な思い出をつくってくれた参加者の皆さんに、心より感謝申し上げます。

（３）今後 START プログラムに参加する後輩へのアドバイス

１．事前学習について

渡航前に、その国の歴史・宗教・文化、そして日本との関わりについて簡単でいいので自分なりに調べておくことを強くおすすめします。現地で見聞きしたことが、ただの観光ではなく、事前に勉強したこととして、ずっと記憶に残る経験になると思います。また、学生とコミュニケーションをとるときに、相手の国について何か一つでも知っていると、とても喜んでくれますし、相互理解の第一歩にもなります。

２．語学力について

英語力に自信がなくても、現地の人たちは、拙い英語でも一生懸命理解しようとしてくれます。通じない経験も含めて、すべてが学びになります。大切なのは、完璧な文法よりも伝えたいという姿勢だと感じています。

３．記録することの大切さ

現地の生活は想像以上に刺激的で、毎日があっという間に過ぎていきます。夜は疲れてしまいがちですが、「今日何をして、何を感じたのか」を、スマホのメモや日記、写真・動画など、どんな形でもいいので少しだけでも残しておくことをおすすめします。人はすぐ忘れてしまうので、そのひと手間が、後から振り返ったときに、自分の成長や気づきを支えてくれる大切な記録になります。

４．海外に行ける機会を逃さない

中東に限らず、世界では紛争や情勢不安が続き、いつでも海外に行けるとは限らない状況です。だからこそ、行けるタイミングで海外に出られる機会があるなら、迷わず挑戦してほしいと思います。このプログラムは、その一歩を安全に後押ししてくれる貴重なチャンスです。

５．プログラムに参加する意義

一人旅では得られない経験が、このプログラムには詰まっています。現地の学生との交流はもちろん、日本から参加する学生たちも、多様な学部・価値観を持つ仲間ばかりです。たくさん刺激をもらえるのでぜひ参加してほしいなと思います